



総合学術調査報告書発刊によせて

鳴門市長 泉 理彦

阿波学会紀要第 61 号「鳴門市総合学術調査報告書」の発刊にあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。

この度、鳴門市におきまして、平成 27 年度と 28 年度の 2 ヶ年度にわたり、総合学術調査が実施され、阿波学会会員並びに関係者の皆様のご尽力とご協力により、この価値ある報告書が上梓されますことを、心からお喜び申し上げます。

今回調査が行われました鳴門市は、昭和 39 年に、阿波学会による初めての自治体単位での総合学術調査が行われた地であり、約 50 年振りに改めて本市を選定いただいたことに大きな感慨を覚えているところでございます。

前回の調査から長い歳月が経ちましたが、その間、大麻町との合併や江戸時代から約 370 年間続いた塩田の廃止などによって、地域の産業構造や景観は大きく様変わりし、また、大鳴門橋の開通や神戸淡路鳴門自動車道、高松自動車道の全線開通により、本市を含む四国東部地域における、人や物の流れも大きく変化いたしました。

今回の調査では、前回の調査で対象となっていなかった大麻町を加えたことで、新たな知見が得られたとも伺っており、50 年あまりの歳月の経過が、各種分野の調査結果にどのような影響を及ぼしているのか、大変興味深いところでございます。

さらに今回は、本市と南あわじ市、兵庫県、徳島県が一丸となって、現在進めている「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録に向けた取組に連動して、鳴門海峡に関する様々な調査も行われたとのことであり、心より感謝を申し上げます。

さて、本市は、名勝「鳴門」により全国的に知られているだけでなく、「福永家住宅」「宇志比古神社」「鳴門板野古墳群」などの国指定文化財や「板東俘虜収容所」における史実などにより、文化面においても近年注目を集めております。また、最近では国指定天然記念物の「コウノトリ」が飛来し、兵庫県但馬地区周辺以外での、国内初となる自然繁殖が期待されるなど、自然に恵まれた環境の良いまちとしても認知されつつあります。

今年 5 月に市制施行 70 周年を迎える記念すべき年にあたり、この度、本市に関する総合的な学術調査の成果が上梓されましたことは、本市にとりまして大変有意義なことであり、今後、郷土鳴門市の豊かな自然と歴史文化を見つめ直し、未来を見据えた今後の地域づくりに向けて活用して参りたいと考えております。

結びにあたり、今回の総合学術調査の関係者や、ご協力をいただきました市民の皆様方に心からお礼を申し上げますとともに、阿波学会の今後益々のご発展と、会員各位の一層のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、お祝い並びにお礼の言葉とさせていただきます。